

モンゴル国からの活動報告 12 助産師のコンピテンシー創出に関する活動

池本めぐみ

国立国際医療研究センター 国際医療協力局 助産師

はじめに

私は、独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）の技術協力プロジェクト「医師及び看護師の卒後研修強化プロジェクト」の長期専門家として国立国際医療研究センターからモンゴル国（以下、モンゴル）に派遣されています。

2021年12月からモンゴルの助産の関係者の皆様と卒後研修の基盤となる「助産師のコンピテンシー」の創出に関する活動を開始し、2023年12月に保健省の保健大臣令として発令されました。今回は、コンピテンシー創出に関する活動とコンピテンシーをご報告させていただきます。

1. コンピテンシーとは

世界保健機構では、「コンピテンシーとは、与えられたコンテキストの中でタスクを実行するために知識、スキル、態度などを統合した能力である」としています。また、国際助産師連盟は、「助産実践に必須のコンピテンシーは、国際助産師連盟の定める『助産師』の資格称号を使用して助産実践を始めようとする個人に求められる、最低限の知識・技能・専門職としての行動を表したものである」としています。

2. コンピテンシー創出のための活動

2022年1月に助産の関係者の中心であるモンゴル助産師会、モンゴル医科大学の助産の教員、保健開発センターの行政官らとモンゴルの助産師のコンピテンシーを検討するために日本や国際助産連盟などの事例を確認しました。そして、モンゴルの母子保健の現状、助産師に求められている役割と現状との

ギャップ、ウランバートルと地方の助産師の役割の違い、卒前教育の新カリキュラムの導入など、助産師を取り巻く状況について考察し、コンピテンシーを検討しました。

次に、2022年5月5日の国際助産師の日のワークショップを開催し、検討を重ねたコンピテンシーについて助産師らの意見を集めました。ワークショップには、モンゴル助産師会、ウランバートルと地方の病院の臨床の助産師、モンゴル医科大学、UNFPAなど約50名が参加しました。地方の助産師からは、特に思春期の少女への関わりや若年妊娠への対応があげられました。また、ワークショップに参加した助産師に質問紙調査を実施しました。

さらにモンゴル国全土の助産師に質問紙調査を実施するために、モンゴル医科大学の研究倫理審査を経て、保健省で調査の許可をいただきました。データ収集は、モンゴルの多くの方が長期の夏休みにあたる時期を挟んでいたため回収に苦労もありましたが、モンゴル全土で就労している助産師1,119名（2021年現在）のうち708名からの回答をいただきました。その結果を基に保健省、保健開発センター、モンゴル医科大学、モンゴル助産師会、臨床の助産師、JICAプロジェクトで協議し、6つのコンピテンシー、その定義と構成要素を最終化しました（写真）。



（写真）ワークショップの参加者

最終化した助産師のコンピテンシーは、2023年6月に保健省の医療従事者委員会で議論され、承認を受けました。保健省の産婦人科専門委員会、医療サービス局の産科サービス担当の専門官、保健開発センターの行政官なども関わり保健大臣令のドラフトを作成し、保健省内で確認され、2023年12月20日に保健大臣令A/451として発令されました。



3. モンゴルの助産師のコンピテンシー

モンゴルの助産師のコンピテンシーは、6つのコンピテンシーから成り、各コンピテンシーの定義、構成要素などが示されました。

1つ目のコンピテンシーは、「妊娠前のリプロダクティブ・ヘルスケアを提供する能力」で、その定義が「助産師は、女性・思春期・その家族の性と生殖の健康の保持・増進、リスクの早期発見のために対象者の自己決定及び自己管理に影響を与えるようにケアを提供する能力である」です。2つ目は、「妊娠中のケアを提供する能力」で、その定義が「助産師は、妊婦と胎児の状況をアセスメント、健康の維持・強化し、異常を予防し、早期に発見することを支援する」です。3つ目は、「出産時のケアを提供する能力」で、その定義が「助産師は、分娩期における産婦と胎児の状況をアセスメントし、安全で有効で敬意を持った助産ケアを提供する」です。4つ目は、「産後の母と新生児へのケアを提供する能力」で、その定義が「助産師は、産後の女性および新生児の健康を維持・強化し、異常を早期に発見すること等のケアを提供する」です。5つ目は、「自律した専門家である能力」で、その定義が「助産師は、専門職としての高い倫理観と自信を持ち、継続的な学習者であり、女性、女子、家族と良好な関係を構築、他職種と連携する能力を持った専門家である」です。6つ目は、「コミュニケーションとしての能力」で、その定義が「助産師は、女性・思春期、その家族の一人ひとりを尊重し、親切で、思いやりがあるよいコミュニケーションをとることで安全で、アクセスしやすい、質の高いケアを提供する」です。

また、こちら(図)が助産師のコンピテンシーを示したフレームワークです。フレームワークにも、モンゴルの皆様の熱意と母子への想いが込められています。伝統的なゲルの窓をモチーフにし、窓に6つのコンピテンシーを入れ、助産師という職業名

図

(эх баригч, 私の耳では「いひばりひち」と聞こえます)を大きく書き、助産師を示すピンク色で、助産師が母子、女性、女子をはじめ家族を含む人々のすべてのそばにいる、ともにあることを意味しています。周りを取り巻く大麦は、針先のような小さな穂先に実る麦が、生命の誕生の奇跡と尊さ、豊かな実りがモンゴル国の国民の繁栄を示しています。中央に世の中のありとあらゆるものはペアで平等にあることを意味する陰陽を配置しました。

4. 多職種との協働

現在、保健省に看護職の免許を取得している専門官が不在であり、助産師の専門委員会もありません。そのため助産師に関わることは、行政官、産婦人科医、小児科医、UNFPA、モンゴル医科大学の教員、モンゴル助産師会、臨床の助産師など、さまざまな関係者で協働し、協議することが求められます。行政官の人事交代も多く、助産師という職業への捉え方も様々です。今後、これらの状況に対応でき、将来のリーダー格となる助産師を育成していくことも大切だと思います。

おわりに

助産師のコンピテンシーに関する約2年の時間は、長いようですが、短くもあります。なぜなら、日本の助産師のコンピテンシーなど先輩方の知見があったからです。日本の先生方、日本からご支援ご指導いただいている皆様に深く感謝申し上げます。また、モンゴルの皆様、大きな一歩が形になり本当に嬉しいですね。このように形になるまでねばり強く活動して下さったことに深く感謝申し上げます。

【参考文献】

World Health Organization, Global Competency and Outcomes Framework for Universal Health Coverage, 2022